

第4回核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ

7.1 集会

市民対話集会



- 【プログラム】
- 13:00 開会、主催者あいさつ、来賓祝辞
 - 13:15 分科会、全体会議説明
 - 14:15 質疑応答、意見交換
 - 15:00 閉会

【分科会、全体会議説明】



土山 秀夫 氏(コーディネーター)

1952年長崎大学医学部卒業、同大学助手、講師(1959～61年米国イリノイ大学客員研究員)、助教授を経て、1969年教授、1982～86年長崎大学医学部長。1988～92年長崎大学長。この間、全国医学部長病院長会議常任理事、国立大学協会理事、日本学術会議「平和問題研究連絡委員会」委員などを歴任。

現在「世界平和アピール七人委員会」委員。長崎大学名誉教授。長崎平和宣言文起草委員。核兵器廃絶ナガサキ市民会議代表、核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ実行委員長、長崎県九条の会共同代表ほか。



梅林 宏道 氏(「核の傘」を考える —核兵器に依存する非核保有国の責任—)

NPO法人ピースデポ特別顧問、前代表。磁性物理学を専攻し東京大学数物系大学院博士課程修了。工学博士。大学教員などを経て1980年よりフリーに。以後、さまざまな平和、軍縮、人権問題に取り組む。NPO法人ピースデポを創設。核兵器廃絶を目指す国際NGO中堅国家構想(MPI)国際運営委員。核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)東アジア・コーディネーター。月2回発行の情報誌『核兵器・核実験モニター』主筆。08年6月、第2回日本平和学会平和賞を受賞。著書に「米軍再編—その狙いとは」(岩波ブックレット)、「在日米軍」(岩波新書)など。



山田 寿則 氏(核兵器禁止条約へ —目標を明記して段階的アプローチを—)

明治大学大学院博士後期課程法学研究科 単位取得退学

現在：明治大学法学部兼任講師

著書・訳書：『わかりやすい法学・憲法』(共著・文化書房博文社)、ジョン・バロース著『核兵器の違法性—国際司法裁判所の勧告的意見』(共訳・早稲田大学比較法研究所叢書27号)、C.G.ウィーラマントリー著『国際法から見たイラク戦争』(共訳・勁草書房)、メラフ・ダータン他著『地球の生き残り 解説モデル核兵器条約』(共訳・日本評論社)など。



芝野 由和 氏(核兵器廃絶運動の継承と創造 —戦後世代の新たな取り組み—)

信州大学人文学部卒業、明治大学大学院政治経済学研究科修士課程修了、同博士後期課程単位取得退学。都留文科大学、都立商科短大、日本大学などの非常勤講師を経て1990年から長崎総合科学大学長崎平和文化研究所運営主任、同共通教育センター准教授。2000年から長崎市平和宣言文起草委員。著書に『ナガサキの平和学』八朔社、編訳書にバスティアン『アウシュヴィッツと〈アウシュヴィッツの嘘〉』白水社、ライヒェル『ドイツ 過去の克服』八朔社(いずれも共著)など。



中村 桂子 氏(NPT再検討会議へ望む —好機を生かすために—)

神奈川県生まれ。99年、米国カリフォルニア州立大学ヘイワード校(国際学)卒業。01年、米国モンテレー国際大学大学院(ジェンダー開発学専攻)を修了。同年、「NPO法人ピースデポ」の専従スタッフに。05年より事務局長。月2回発行の情報誌『核兵器・核実験モニター』や、毎夏発行の「イアブック『核軍縮・平和』～市民の自治体のために～」(高文研)の執筆・編集を担当。今年1月に発足した「核拡散・核軍縮に関する国際委員会(ICNND)」日本NGO・市民連絡会事務局・副事務局長。